



教頭先生より「君たちの未来」

教頭 田中 照近



みなさんは、どんな未来を予測しますか。最近の産業界で話題になっているテクノロジーと言えば、やはり人工知能（AI）技術です。AIがチェスのチャンピオンに初めて勝ったのは1997年のことです。2016年3月には、AIが囲碁の世界チャンピオンに4勝1敗で勝ち越しました。ディープラーニング技術により、AIは急速に発展しました。AIが進歩し、人間の能力の限界を追い越すのはいつでしょうか。そのタイミングは「技術的特異点（シンギュラリティ）」と呼ばれますが、2029年と予測されています。

新しい「イノベーション」により多くの新産業が興り、IT業界だけでなく、産業界全体において革命的に経済が変革することが予測されます。AIとビッグデータを組み合わせ、それをビジネスに活用する動きは、消費者行動分析などのマーケティングをはじめ、広告、ゲーム、金融、教育などあらゆる分野で始まっています。内閣府によると、2030年までに日本の労働力人口は2013年比で約900万人減少すると予測されています。他方、経産省は、AIやロボットにより、雇用が735万人減少するとしています。これは労働力の減少をAIやロボットが代替することを意味します。

これからの社会で活躍する若者は、きっと、現在では存在しない新しい職業に就いていることでしょう。若者たちが創る創造的で明るい未来が、とても楽しみです。がんばれ！鹿工生！

第18回 高校生ものづくりコンテスト鹿児島県大会

6月7日（金）～8日（土）にかけて第18回高校生ものづくりコンテスト鹿児島県大会が本校で7部門（旋盤作業・電気工事・電子回路組立・化学分析・木材加工・測量・家具工芸）と鹿児島情報高校（自動車整備）で開催されました。県内14校75名の選手が参加し、本校からは20名の選手が競技に挑みました。鹿工生は、日々努力した成果をしっかりと発揮したことから、昨年度同様旋盤作業部門をはじめ電気工事部門、電子回路組立部門、測量部門の4部門（出場7部門）で最優秀賞（第1位）に輝きました。最優秀賞の生徒は今月沖縄で行われる九州大会に出場が決まりました。県大会で見つけた課題を克服し、更に技を磨いて九州大会でも大いに活躍して欲しいと思います。さらに、生徒の皆さんには目標を九州大会参加ではなく、昨年度叶わなかった悲願の全国大会出場として、鹿工魂を抱いてより一層頑張っって自分の限界を越えてくれることを願っています。



旋盤作業部門



電気工事部門



電子回路組立部門



化学分析部門



木材加工部門



測量部門



家具工芸部門

ものづくり大会に入賞して

旋盤作業部門

電子機械系2年2組
西尾 知真(鴨池中)

旋盤作業部門において、最優秀賞を受賞した。「やった。」という喜びよりも「良かった。」という安堵の気持ちの方が大きかった。その理由は、本校はこの部門で2年連続優勝しており3連覇のかかった大事な大会だったからだ。最初旋盤について何も知らなかった私が最優秀賞を受賞できたのは先生方の温かい御指導と先輩方や部員の応援、家族のサポートのおかげだと思う。県大会では勝てたが、あまり良い出来ではなかった。九州大会では自分の納得する作品を作れるよう練習を重ね、全国大会を目指します。



電子回路組立部門

情報技術系3年
江口 龍聖(野田中)

私は高校生ものづくりコンテスト電子回路組み立て部門に出場し、最優秀賞を受賞しました。競技当日は緊張で焦ってしまい、タイムロスしそうになりましたが、今までの練習が自信となり、全力を出すことができました。九州大会は、県大会の課題とは大きく変わるので、まだこれからというところ。九州大会まで悔いのないように取り組み、これまでの努力や経験を全力で発揮して全国優勝を目指して頑張っていきたいと思います。



電気工事部門

電気技術系3年1組
福本 明笑(伊敷中)

6月8日(土)に行われた高校生ものづくりコンテストに電気工事部門に出場しました。2月から練習を始め、最初の頃は難しく、時間内に終わることが出来なかったですが、毎日頑張っって練習し、県大会で勝つことが出来ました。7月6(土)・7日(日)にある沖縄で行われる九州大会に出場します。練習の成果を発揮出来るように頑張りますので、応援よろしくお願いします。



測量部門

建設技術系2年
安樂遼太郎(東谷山中)
橋口 陸(蒲生中) 増満 龍輝(城西中)

私たち3人は、6月8日(土)に本校で行われた、ものづくりコンテスト県大会測量部門に参加しました。前日からの降雨で外業ができるか心配でしたが、大会当日は天候にも恵まれ、練習以上の力を発揮することができ、最優秀賞を受賞することができました。九州大会では、更に高い技術が求められるので、県大会での反省を活かし、今まで以上に迅速かつ高精度な測量ができるよう、これからも練習に励んでいます。



第18回高校生ものづくりコンテスト 鹿児島県大会 本校入賞者一覧 ～7部門中4部門最優秀賞受賞～

部門	順位	表彰	学科	学年	生徒氏名	部門	順位	表彰	学科	学年	生徒氏名	部門	順位	表彰	学科	学年	生徒氏名
旋盤作業	1	最優秀賞	電子機械系	2	西尾 知真	化学分析	2	優秀賞	工業化学系	3	原田 あゆ	測量 (3人1チーム)	1	最優秀賞	建設技術系	2	安樂 遼太郎
電気工事	1	最優秀賞	電気技術系	3	福本 明笑	化学分析	3	優良賞	工業化学系	3	立島 晃平	測量 (3人1チーム)			建設技術系	2	橋口 陸
電子回路組立	2	優秀賞	電気技術系	3	瀧山 彰俊	化学分析	4	優良賞	工業化学系	3	田中 哲	測量 (3人1チーム)			建設技術系	2	増満 龍輝
電子回路組立	1	最優秀賞	情報技術系	3	江口 龍聖	木材加工	3	優秀賞	建築系	3	白坂 いくみ	家具・工芸	3	優秀賞	インテリア系	3	松元 愛海

教育実習を終えて

安村 康太郎さん(平成27年度建築系卒)

3週間という短い期間でしたが、本当にお世話になりました。実習を終えて1つだけ皆さんにアドバイスしたいと思います。それは、「いま、この瞬間を大切に」ということ。いまの自分は1秒前までの自分でできています。テストや部活の結果が出た、あるいは出せなかったというのは、全て今までの自分が積み重ねてきたことの集合です。失敗した過去の自分はもう変えられない。変えることができるのは未来の自分。その未来の自分を作るのはいまの自分。さあ、なりたい自分になるために、いま、あなたに必要なことは何ですか？



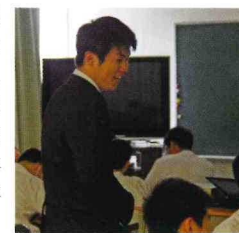
山下 昂希さん(平成27年度電気技術系卒)

実習期間の3週間はあっという間に過ぎていった感じがしています。この3週間の間にはバスケやラグビーの応援に参加することもでき、自分たちの高校生だった時のことを懐かしく思うのと同時に、今も前と変わらず元気に応援している生徒の姿を見てとても嬉しかったです。3週間という短い期間でしたが、教育実習生として母校に帰って来られてよかったです。これからも、鹿工生らしく元気に頑張ってください。応援しています。



四宮 勇徳さん(平成27年度電気技術系卒)

鹿児島工業高等学校の先生方、生徒の皆さん、3週間お世話になりました。今も、私が鹿工生だった頃も変わらず、挨拶が素晴らしいと、鹿工に戻ってきた時に思えて、素直に嬉しかったです。鹿工生は、県内で1番挨拶が出来る学校の生徒だと思っているので、これからも伝統を繋いで欲しいと思いました。私は、保健体育科の教育実習生として、保健、体育の授業をさせて頂きました。教材研究をはじめ、先生方には様々なことを教えて頂き、身になることが多くありました。現場で生徒を見て、実態を察することは簡単なことだとあきまてましたが、全体的に見ることは出来ても、個人を見ることは難しく思いました。悪いことばかりではなく、良いこともあり、生徒達が「先生」と呼んでくれるとその日のモチベーションは最高潮でした。大学生で、「先生」を体験できたのは、非常に貴重な体験でした。有難うございました。



放送部 第66回 NHK杯全国放送コンテスト県予選大会 【ラジオドキュメント部門】優秀賞 全国大会出場！

建築系 3年 岩川 昂平(紫原中)

私たち放送部は6月5日(水)からの2日間、第66回NHK杯全国高校放送コンテスト県予選大会にアナウンス部門3、朗読2、ラジオドキュメント部門1、創作ラジオドラマ部門1作品で出場しました。朗読部門でインテリア系2年の鳥丸実那(吉野東中)さんが決勝審査に進みましたが、創作ラジオドラマ部門も含めて入賞まで後一步でした。ラジオドキュメント



部門で建築系3年吉原拓未(明和中)さんを取材した作品「視聴」が優秀賞を受賞し、4度目の全国大会出場権を得ることができました。この作品は耳が聞こえ難い吉原さんの取組を通して、ハンディキャップを持つ方が過ごしやすく、貢献できるような社会のあり方について、考えてもらいたいと制作しました。全国大会は7月22日(月)からの4日間東京で開催されます。上位進出を目指して頑張りますので皆様の御支援御協力をよろしくお願いします。

保育園体験学習



3年生の選択科目「子どもの発達と保育」の授業の一環として、年間4回、保育園での体験学習を実施しています。この体験学習を通して乳幼児理解と共に、保育士の声かけ等を学ぶ機会ともなっています。生徒たちの感想をみても、「最初は不安だったが、子どもたちの話をしっかり聞くと何をしたいのか分かり始め、楽しく実習することができた」や「一人一人性格が違い、対応が大変だったが、保育園の先生は子どもの様子を見ながら、各々の対応をしていた」など、非常に貴重な経験になっていることが分かります。

次回は生徒が主体となって、年長組の園児と交流します。今回学んだことを活かしたような取組をしてくれるか楽しみです。

高校生企業ガイダンス

県建設業協会の主催による「高校別企業ガイダンス」が今年も6月17日(月)に行われました。このガイダンスは「建設産業担い手確保・育成事業」の一環として3年前から実施されているもので、県内32社の土木・建築関連企業が来校し、4つのグループに分かれて会社の魅力や業務内容について建築系、建設技術系、インテリア系3年の生徒に分かり易く説明してくださいました。生徒からは、「県内就職のメリットは？」「面接試験でのポイントは？」「今までで一番の失敗は？」といった質問コーナーもあり、進路決定への参考となる有意義なガイダンスとなりました。



情報モラル,並びにネット依存と健康被害講話

生徒指導部 堀口 晃

中間考査終了翌日の5月17日(金)1校時に全校生徒を対象に「情報モラル,並びにネット依存と健康被害」に関する講話をNPO法人ネットポリス鹿児島理事長の戸高成人氏にさせていただきました。SNS等により相手を傷つけたら、無責任な画像等を投稿することで大きな問題に発展するケースや、昨今増加の一途を辿っている「ネット依存」は病気であり、それによる脳機能やコミュニケーション能力の低下、また「スマホ老眼」とも言われ、両眼視ができなくなるケース等、我々の人体に及ぼす影響などを実際のデータに基づいて教えていただきました。「ものづくり」を学ぶ本校生にとって大いに気をつけるべきことであり、使用する際は、モラルを十分意識するのは勿論のこと、遊び道具としてではなく、自己成長の道具として賢い使用に徹してほしいと思います。



同窓会慰霊祭・総会・懇親会

令和元年7月6日(土)

午後2時から亡師・亡友慰霊祭が厳かに行われました。改めて衷心より御冥福をお祈りいたします。その後、城山ホテル鹿児島ガレリヤにて、令和元年度同窓会総会が行われ、昨年度の活動報告や会計決算報告、今年度の予算案などが審議されました。また、創立110周年記念事業の報告がありました。エメラルドホールでの懇親会は、毎年恒例の吹奏楽部演奏・部活動紹介が行われ、生徒会長や各部活動主将から、日頃の感謝や決意表明が述べられました。今年の総会は、「鹿工新時代～The Rokko A New Generation～」のテーマの元、総会実行委員会(平成10年卒)の方々が一年前から準備をしてこられ、旧職員・現職員・PTA・卒業生の方々約465名が参加され、盛り上がりを見せました。実行委員会の皆様本当にお疲れ様でした。最後に、今回の慰霊祭、総会・懇親会を開催するにあたり、多大なる御協力をいただきました本校卒業生や職員・生徒の皆さんに、心から感謝申し上げます。



学寮防災訓練

1学期末考査3日目の6月27日(木)、学寮にて午後3時から防災避難訓練が実施されました。今回は火災を想定した訓練で、一次訓練では避難経路の確認と各係の役割分担、二次訓練においては消化器の取扱いや消火栓による放水訓練を行いました。鹿児島西消防署と西部防災さんの御指導の下行われ、日頃扱いに慣れていないだけに、寮生たちは真剣な表情で聞いていました。また火災が起きたときの正しい避難経路の取り方やけが人の避難補助・配慮などの指導もして頂き、とても実りある訓練となりました。

学寮では緊急時の連絡や初期消火も生徒主体でやらなければなりません。いざという時に備え、今回の事をしっかりと心に留めて欲しいと思います。



各種大会報告

日本童話祭主催第36回全国児童生徒俳句大会

- ・久留島武彦賞(全国1席) 情報技術系3年 名原 涼(清水中)
- ・大分県教育長賞 電子機械系2年2組 山元 与史樹(鴨池中)

第26回都留市ふれあい全国俳句大会

- 高校生・大学生部門 山梨県議会議長賞 電子機械系2年2組 坂田 龍雅(伊敷中)

第66回NHK杯全国放送コンテスト鹿児島県予選大会

- 【放送部】ラジオドキュメント部門 優秀賞(全国大会へ)
- 創作ラジオドラマ部門 優良賞
- ※全国大会：7月22日(月)～25日(木) 東京NHKホール

夏休み・9月の
主な行事

8月 2日(金) 中学生日帰り体験入学①
8月20日(火) 小学生親子ものづくり学習会
8月27日(火) 中学生日帰り体験入学②

9月 2日(月) 始業式・大掃除
9月10日(火)・11日(水) 実力考査
9月21日(土) 第72回大運動会

9月25日(水)～10月1日(火)
教育相談



ホームページ <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kagoshima-t/index.html>
E-mail kagoshima-t-sh@edu.pref.kagoshima.jp